

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 生体親和性分子が担う環境ストレス応答医農薬品の創生
2. 研究代表者： 有澤 美枝子（九州大学 大学院農学研究院 教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、認識部として剛直な環構造と柔軟なリンカー部を併せ持つ構造が高い生体親和性を有することを基盤に構造展開を行い、実社会のニーズに応える特徴的な医農薬品を開発することを目的としている。

フェーズ1では、ロジウム触媒を用いた非対称ウレア化合物の合成法やペプチドジスルフィド開裂・挿入反応の開発を行い、さらに、これらの独自の反応を基に、生物活性を有する有機小分子を創製している。特に、多数の農薬や創薬の候補化合物の有機小分子の設計と合成に成功している。フェーズ2の研究計画は妥当であり、創発らしくさらに大胆に挑戦し、独自の有機合成化学と分子設計による医薬品や農業薬剤の開発を大きく期待する。

以上